

学校で労働教育を

NPO法人環境まちづくりネット 理事長 荻野善昭

私は以前、新宿の表通りで商売をしていましたが、店の前の通りに吐き捨てられたチューインガムによって、店内までもが汚されて泣かされ、そのガムを取り除くのに大変苦労しました。現在はその店を賃貸し、安全に短時間でガムを取り除く方法の研究に没頭しました。さらに、エコの時代を考えて動力を一切使わず、しかも腰を痛めぬよう立ったままガム取りができる弾力性のある“ガム取り棒”と筑波大学と産学連携し、ガム取り専用液の“ガム取り番”を完成させました。さらに東京都産業労働局よりトライアル発注認定制度に認定していただきました。

このガム取り棒を使って、新宿区役所の歌舞伎町清掃活動をはじめ、「まち美化運動」で活動している人たちと一緒に、新宿区では新大久保駅や高田馬場駅周辺、豊島区池袋駅西口周辺、港区の表参道通り、杉並区荻窪駅南口や阿佐ヶ谷駅周辺、世田谷区三軒茶屋等々で吐き捨てられたガムの除去に取り組んでいます。このボランティア活動に参加している人の多くは、大学生ですが、面白いことにボランティアの学習・研修に来ている学生さんもいるということです。

特に、私が注目し感心したことは、新宿区立四谷中学校の生徒さんが「まち美化運動」に参加し、四ツ谷駅周辺でガム取り清掃に取り組んでくださったことであり、品川区立荏原第六中学の生徒さんが町会の人たちと一緒に、東急西小山駅前広場をいつまでも清潔で美しい広場にしたいと定期的に清掃活動を始めたことであり、目黒区の私立日出学園の生徒さんが新目黒橋の清掃活動に取り組んで下さったことです。

日本経済が今日のように成長した基はと言えば、日本人の“勤勉性”であり“誠実性”であり“公德心”に満ちていたからだと思うのです。それゆえに日本製は、安心・安全な製品と多くの国の人たちから信頼され、愛用されて来たのではないのでしょうか。

年金問題で明らかになったことのひとつに、1日に打つキーボードの数が作業マニュアルで決められていたということ、先日の東海道新幹線パンタグラフ事故は、定期検査の際のボルトの締め忘れが原因であった等々、労働に対する責任感が欠如してきています。

このように、日本人が古来より培ってきた“勤勉性”や“公德心”が失われようとしているとき、中学・高校の生徒や大学生の中に、社会奉仕的労働に積極的に取り組み、その働くことへの意義や喜びを感受している様子に感動しましたし、私自身が私費を投じてやってきたことが、いまここに生きてきたのだと実感している今日この頃です。

しかし、いまの学校教育では、国語や数学などの教科はあっても、労働に対する教育は無きに等しく、学校に「労働教育」を取り入れると言っただけで、ご父母の方々からそんな暇があるなら、教科の勉強にもっと力をそそぐべきと言われるでしょう。

しかし、日本の将来を考えるならば、社会奉仕活動を通して、「労働教育」と「公德心教育」を推進してほしいと、心から念願する次第です。

平成22年2月21日